

vol.008 FEBRUARY, 2019. [株式会社正文舎] 会社案内

with
SBS

※SBSは、正文舎（SyouBunSyaの略です）

《新連載》
お客さまトピックス
Review of CLIENTS

コインランドリーと
洗濯代行のお店

ジャバリン様



正文舎のアレやコレ。

「株式会社 正文舎」 **A** to **Z**
HISTORY ~正文舎の今までと、これから。

TOPICS ————— 販促用POP

New&Goods ————— しないことを決める

Focus on JAPANESE ————— 業界用語

What's NEW! ————— Webコンサルティング



株式会社 正文舎のすべての情報は、WEBサイトでご確認ください。
バックナンバーもこちらから。



昭和27(1952)年頃の(株)正文舎印刷所社屋

「株式会社 正文舎」**A** to **Z**

HISTORY

Text : Tokunaga Moe

正文舎の今までと、これから。

histōri [名詞] 歴史

札

幌の中心部を東に抜け、豊平川にかかる一条大橋を渡ってすぐ、川沿いの道路を右に入ると正文舎の社屋がみえてきます。すぐ横を流れる豊平川のおかげで、正面には視界をさえぎるような高い建物はなく、2階の事務所の窓からは、札幌唯一の地酒「千歳鶴」の看板や立ち並ぶビルやマンション、その奥には藻岩山など、川をはさんだ向こう側の様子もよく見えます。

社屋のあるこの菊水一帯はかつて、遊郭で栄えた色街だったといえます。国道36号線から12号線にのびる大きな通りは「大門通」と呼ばれ、当時、この通りに建てられた大きな門にあやかっている

そうです。今ではマンションやスーパー、オフィスや病院などが軒を連ね、歓楽街だった名残はみられません。

1934年に初代社長である岸孝一が札幌市南6条西6丁目に印刷所を開業し、その後1961年にここ菊水に印刷工場を建設し移転しました。創業してから今年で85周年になります。

創業当時の印刷方法は、活版印刷と謄写印刷^{*}でした。その後、写真製版カメラ設備や、平版印刷（オフセット印刷）を取り入れ、1965年に全自動印刷機を導入しました。その後もお客さまのニーズや印刷技術の発達にあわせ、新たに機械を取り入れていったようです。



Photo : Adobe Stock

平成が残り数ヶ月で終わろうとしています。現在26歳の私は、1992年の平成4年に生まれました。物心のついた頃にはすでにPCや携帯電話、コピー機やゲーム機など、デジタル機器が当たり前のように世間に普及していました。中学生時代に、まわりの友達と同じように親に携帯電話をねだって持たせてもらい、それ以来、高校・大学・社会人と、いつもこの小さな液晶画面の世界がそばにありました。離れている親や友人との会話、買い物、読書や旅行の手配、写真を撮ることも、指一本でなんでもできてしまいます。印刷



謄写印刷当時の筆工職人

※ロウでコーティングされた和紙をヤスリ版に置き、金属の鉛筆で文字を書き、点線状の穴を開けて印刷する方法。「ガリ版」とも呼ばれています。

だって、PCのボタンを押せば、デスク横のコピー機からすぐに出力紙がでできます。そういったことに慣れてしまっているせいか、ヤスリ版をガリガリ削りながらひとつひとつ手作業で印刷していた時代のことが信じられません。

デジタルの普及によって印刷方法が変わってきたように、近年はWebの普及によって、情報伝達の手段は紙からインターネットにシフトしてきました。同様に私たち正文舎も、社名を「正文舎印刷」から「正文舎」に変え、従来の印刷部門に加えてWeb制作・マーケティングやシステム開発の専門部門を増設してまいりました。正文舎のお客さま、その先のエンドユーザーにとって、どの媒体でどのような情報を届けるのがベストなのか、私たち正文舎が考え抜き、より良いソリューションとモノを提案・創造し、提供していく努力をこれからも続けてまいります。

85年目を迎える弊社の今年度の全社目標は「製造から創造へ」。昨年の4月に発足したクリエイティブ研究室も、もうすぐ一年を迎え、現在もいくつかの取り組みが並行して動いています。今後も引き続き、目まぐるしい時代の流れに敏感になり、新しい事業を展開していきます。

TOPICS

顔の見える制作物。

販促用POP

Text & Photo : Honma Kazumi

**極厚メモは基本2サイズ。
オプションでお好みのサイズに。**
(サイズによっては追加料金がかかる場合があります)



Photo : Himukai Atsushi

近頃スーパーへ買物に行くと、つい店頭の販促POPに目が留まります。上手いPOPを見ると「このアイデア頂き!」と思います。そして肝心の何を買物しに来たのかを忘れます。

POPが気になる理由は、弊社で販売している廃材メモ帳のためのPOP作りに熱中していたから。

正文舎の2階事務所のカウンター上には、来社されたお客さまに手に取ってご覧頂けるようにメモ帳のサンプルを置いていました。しかしあまり目立っていないため、お客さまがメモ帳サンプルの存在に気付かない恐れが…。また値段やサイズの説明書きも、もっと見やすく解りやすくする必要がありました。

そこでWEB部門のメンバーで目立つPOPを作ろうという事になったのです。

自社で使う物なのでアイデアも自由。ほとんど遊び半分で作りました。楽しくなった勢いで社員の似顔絵イラストを何パターンも描きました。とはいえPOPを作るのは初めての事。いつの間にか「落書き遊び」と化していた作業の手を一旦ストップして、世の中にはどのようなPOPがあるのか、グーグルで「手作りPOP」を画像検索してみました。すると黄色やピンクなどの色紙を台紙に使っている物が多く出てきました。確かに白い紙よりも存在感がアップしそうです。早速1階の工場へ行って、製本課スタッフに印刷で余った用紙の中から黄色い厚紙を探してもらいました。



廃材で作ったメモ帳と同様に、また廃材が新しいモノに生まれ変わる、そう思って嬉しくなりました。紙の値段が上がってきている昨今、紙を大切にしたいものです。

またWEB部門の本棚にあった手作りPOPのハウツー本も参考にしながら、あれこれ試作を繰り返すこと約1ヶ月。先日ようやく完成し、現在弊社の事務所カウンターにお目見えしました。

一番のポイントは、例えば普段スーパーで野菜などを買うときに、そこに「生産者の顔」が見えると安心できて、何だか親しみを感じるように、メモ帳の商品開発メンバーの一人である印刷課スタッフ渡邊のイラストを載せたことです。日頃、印刷課スタッフは、直接お客さまと接する機会がほぼ無いのですが、このPOPで少しでも親しみを持って頂けたら幸いです。

事務所カウンターが楽しい雰囲気になりました。正文舎へお越しの際は是非ご覧ください。

しないことを決める

Webのスタッフと2019年の部署目標を決めていたときのこと。スキルアップも大切、SNSなど情報発信もしなきゃ、できるだけオンタイムで制作を進めることも大切、コミュニケーションも大事と、することをあれこれみんなで考えていた。

そんなとき、ひとりのスタッフがこんなことを言った。

「私たちは、毎年同じことを問題だと言って、ぐるぐる同じところを回っている。今年は、目標を絞ってこれだけにして問題を解決しましょう。2019年の終わりには、私たちががんばったね。ちゃんと解決できたねって言い合えよう。」

そうだな。

目標を決めるときは、いつもやるべきことばかりが気になって、あれもこれもとちょっと欲張りな目標ができてしまいがち。そして、やることが多くなってしまい、年の終わりになって、目標やってないと焦ったり、ああやっぱりできなかったと落ち込んだり。こんなことになるのが多いのではないだろうか。業務が忙しかったからということを言い訳にして。

それだったら、思い切ってやらないことを決めて、しなきゃならないことをそぎ落として、一番大切なやるべきことに集中したほうが生産的ではないか。

そう思った。

スタッフたちも、「そうだね」とみんな納得したようだ。そして、やることが少し減ってほっとしているようにも見えた。

最近のWebのスタッフたちは、会議をしていても笑顔が多くなったと思っている。そうして、雑談をして盛り上がっていたりする。私はそれをいいことだと思っているのだ。なぜなら、マジメに業務のことだけ考えていても、行き詰まってしまうから。業務のことをまじめに取り組むのは社会人として当たり前のこと。それだけでは、あまりおもしろくない会社になってしまうと思うのだ。凝り固まると、あまりいいアイデアがでないから。それよりも、リラックスして雑談をして笑いあっていると、ふとしたときにすごくいい考えが浮かんでくる。仕事の報告だけではわからない素の顔も見えて、それがチームワークにもつながる。

そうした地盤が少しずつできてきたので、目標設定の会議でも、「やらないこと」が決まったのだと思う。そうして、やるべきことが明確になって、すっきりした気分で2019年を迎えられたのではないか。

2019年の12月最後の営業日に、「今年一年かけて、この目標に取り組んでよかったね」と笑顔で言うという共通のイメージができたので、多少ぎくしゃくすることがあったとしても、今年も元気にがんばっていける。そう思っている。



Photo : Adobe Stock

Review of CLIENTS

お客さまトピックス

お世話になっている地域への恩返し——
北海道胆振東部地震の翌日から
コインランドリーを無料開放。

わたしたちのお客さまの、今。
コインランドリーと洗濯代行のお店
ジャバリン 様
(株式会社ライトン様)

Photo : Himukai Atsushi

北海道胆振東部地震の翌日からコインランドリーを無料開放、
その様子がNHKの全国ニュースで放送されました。

札幌市円山エリアで「コインランドリーと洗濯代行の
お店 ジャバリン」を営む株式会社ライトン様。
昨年発生した北海道胆振東部地震の翌日から2日間、
停電や断水の方を対象に、通常800円の料金を無料にする
サービスを実施され、話題になりました。

「お世話になっている地域への恩返しとして、無料サービ
スを始めました。洗濯物がたまるとストレスもたまると思う
ので、少しでも解消してもらいたかった」と話す竹内社長。
洗濯できずに困っている地域の方に喜んでいただき、
さらにこの様子はNHKの全国放送でも取り上げられまし
た。



写真手前から電解水「除菌すぎ」機能付き洗濯機：3台、全自動洗濯乾燥機：2台、乾燥機：3台

HISTORY～ジャバリン様&正文舎のお付き合い

2012年5月に本州から札幌へ移住された竹内康社長。
「お店に人がいるコインランドリー」、そして「洗
濯物を預かって、代わりに洗濯をして、たたく返す“洗濯
代行”」という新しいビジネスモデルのお店を札幌にオーブ
ンされるということで、弊社がホームページとチラシを担当
させていただきました。

ホームページは毎月1回、アクセス解析をもとに打ち合わ
せをして、改善を繰り返しています。



▲弊社が手掛けたオープン告知フライヤー

Review of CLIENTS

Text : Ebina Mikiko
Provide Photos : Jabba Ring



竹内社長（右から3人目）とスタッフの皆さん

当時は「洗濯代行という新しい概念が札
幌に定着するのだろうか」「コインラン
ドリーのホームページを見てくれる人はいるのだ
ろうか」と不安もいっぱいでしたが、現在「布
団の洗濯代行」が人気サービスで、テレビやラ
ジオでも何度も取り上げられるほどの人気店に
なり、ホームページのアクセスも多月では2万
ページ近く閲覧されるようになりました。また、
布団の洗い方を紹介したYouTube動画は10万
回近く再生されています。



洗濯代行したものはたたくでお返しします



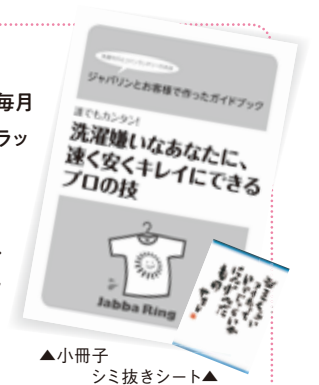
洗濯代行受け渡し用ロッカー

竹内社長からは次のようなコメントをいただきました。

●最初によりホームページを作ることも大事ですが、そのあとの方が大事です。ジャバリンでは毎月
正文舎さんにコンサルをお願いしているのでアクセス解析やキーワードの分析をして定期的にブラッ
シュアップでき、ホームページだけでなくSNSなど全般的な集客を勉強させてもらっています。

●ホームページを作るときにはメディアを意識することも大切です。例えばプレスリリースを行うと、
ディレクターの方がホームページをチェックします。たとえ見込み顧客が誰も見てくれなかったとし
ても、メディアの方が見て「ここは大丈夫」と思ってもらえるかが重要です。そのとき、信用して
もらうことが大事なので、権威のある方のコメントや、お客さまの声を載せるとよいでしょう。

●テレビなどのメディアに出たときに気を付けることは、イメージを膨らませて来店いただいた方に「期待外れだった」とがっ
かりさせないことです。もしもテレビでよい面を100%出し切ってお客さまが満足してくれなかったら、評価がマイナスになっ
てしまうだけです。お客さまが来店されたときにテレビでは伝えていないサービスを提供すると、お客さまの満足度が上が
り口コミにもつながりますよ。さらに「口コミ用グッズ」を用意することをお勧めします。ジャバリンではシミ抜きシートを
お渡しして、口コミを広げるツールとして使っています。また、会員様向けに小冊子も作っており、会員サービスの向上を図っ
ています。



▲小冊子
シミ抜きシート▲



コインランドリーと洗濯代行のお店
ジャバリン
札幌市中央区北5条西25丁目1-27
☎ 0120-994-461
(9:00～18:00 木曜・祝日除く)
TEL.011-688-5870
FAX.011-688-5871



[https://www.youtube.com/channel/
UC3liH116wjxHNxl6X6rMpWA](https://www.youtube.com/channel/UC3liH116wjxHNxl6X6rMpWA)



ホームページ
<https://www.jabbaring.com/>



③ 業界用語

まめ

にほんごの知識

Text : Kurita Miyuki

02

業 業界用語といったら、どんな言葉を思い浮かべますか。テレビをみていると、「ワイハー」（ハワイ）とか「ゴイスー」（すごい）なんて具合に、わざと言葉をひっくり返して使う芸能人に出くわすことがあります。私の中では、中山秀征さんとか、とんねるずとかがよく使うイメージです。「業界用語」といえば、この手の芸能界の言葉を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

「業界用語」を辞書で引くと、

同じ職業や業種の中で用いられる単語や言葉。一般には通じない、あるいは一般に用いられているとは違う意味を持つことが多い。客など他人に知られないよう隠語的要素を持つ語と、仲間意識を高めたりするための語がある。

〈三省堂スーパー大辞林3.0〉

とあります。

弊社の事業のひとつである印刷の業界にも勿論あります。

例えば本の各部の名称。本の上が「天」、下が「地」、本文を開いた時の中心側を「のど」、外側を「小口」といいますが、「天」、「地」あたり



Photo : Adobe Stock

は荷物をさかさまにするな、という意味の「天地無用」という言葉が一般に使われているので何となくイメージできるかと思いますが、「のど」などは日頃使っている意味とは随分異なりますから、一般にはわからない方も多いかもしれません。

百貨店業界では、例えば「五八様」と言ったら「 $5 \times 8 = 40$ （しじゅう）」で始終来てくれる客、つまりお得意様のことを指す、など面白い隠語がいくつもあるそうです。調べるとなかなか面白いですよ。

ところで、先日校正をしていたら、「大宗を占める」という表現に出くわしました。文脈からして「大半を占める」という意味のようですが、聞きなれないので調べてみました。

ところが、辞書には出ていません。ネットで調べてみたら、どうもこれは官公庁の業界用語らしいということが分かりました。なるほど、確かに私が見た文章の筆者の肩書きには、〇〇省と書いてあります。

見慣れないからと言って安易に間違いを指摘してしまうと、お客さまに不愉快な思いをさせてしまうかもしれませんね。

校正の現場から。

高田屋嘉兵衛という人物をご存知でしょうか。江戸時代後期の海運業者（北前船の経営者）ですが、

何年か前に、お客さまの文章の中にこの人物が出てきました。

ところが、「衛」の字が抜け落ち「高田屋嘉兵」となっていたのです。すぐさま担当者を通じてお客さまに確認の上、訂正したのですが、なぜ私がすぐ間違いに気付いたのか？ それはたまたま「北前船」が私の大学の卒論テーマだったからです。これがプロレスラーの名前だったら絶対に気付かなかったでしょうね（笑）。校正には幅広い知識が必要です。

What's New! Webコンサルティングサービス



Illustration : Adobe Stock

WEBSITE
DATA
ANALYSIS

インターネットで ビジネスの成果を上げたい方へ

正文舎では、Webコンサルティングサービスをご用意しています。

お客さまと、Webマーケティングのゴールを共有し、そのゴールに向けて施策を実施。

効果測定を行い、PDCAを回していきます。

Webコンサルティングサービスでは、
下記を行います。

アクセス解析

Webサイト等の
改善ご提案

打ち合わせ

仮説立案

改善施策の
実施

効果測定

月に1回、3カ月に1回など、頻度はご希望に応じます。

費用はホームページの数や規模などにより異なりますので、一度ご相談ください。

《 会社概要 》

社 名：株式会社 正文舎

代 表 者：代表取締役 岸 昌洋

創 業：昭和 9年 5月 1日

設 立：昭和27年 5月15日

資 本 金：1,400万円

所 在 地：[本 社]
〒003-0802
北海道札幌市白石区菊水2条1丁目4番27号
TEL.011-811-7151
FAX.011-813-2581

[東京オフィス]
〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-7
オリエント赤坂モートサイド805
TEL.03-5413-4016
FAX.03-5413-4017

取扱い品目

印刷事業

【 商業印刷物 】

[情 報 系] パンフレット・リーフレット・カタログ・チラシ、会社案内、ポスター、カレンダー、PR誌、取扱説明書（マニュアル）

[物流資材系] 各種封筒、包装紙、シール・ラベル

【 出版印刷 】

[書 籍] 名鑑、各種名簿、記念誌、単行本

[雑 誌] 週刊誌、月刊誌、専門誌

[新 聞] 各種業界新聞、学校新聞

[学 参 系] 教科書、辞典、問題集、生徒会誌

[自 費 出 版] 同人誌、自分誌、詩集、エッセイ、写真集

【 業務用印刷 】

伝票・帳票各種、オンデマンド／バリアブル、小ロット印刷、賞状（学位記・証書等）印刷、可変宛名印字、ダイレクトメール

情報メディア事業（WEBサクセス） <https://www.websuccess.jp/>
各種WEBサイトの企画・制作・運営管理、各種データベースの企画・構築・運営管理、クロスメディア展開の企画・構築・運営管理

賞状net事業

賞状・表彰状等のインターネット通販サイトの運営



メディア・ユニバーサル・デザイン協会認定のメディア・ユニバーサルデザイン・アドバイザーの資格を持った制作者が多く在籍しています。



紙には古紙80%再生紙のOKマットコートエコグリーンを使用しています。



グリーンプリンティングの認定を受けています。



全日本印刷工業組合連合会によるCSR認定制度の基準を達成しています。



ISO/IEC 27001:2013 JIS Q 27001:2014 情報セキュリティマネジメントシステム の認証取得をしています。



ぶらねっと
©syoubunsysa.inc

★ぶらねっとくんは、正文舎の業務や取組を紹介するときにどこからともなく現れるオリジナルキャラクターです。

製 造 か ら 創 造 へ

株式会社 正文舎

札幌本社 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目4-27
TEL.011-811-7151 / FAX.011-813-2581

東京OFFICE 〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-7 オリエント赤坂モートサイド805
TEL.03-5413-4016 / FAX.03-5413-4017

<https://www.syoubunsysa.co.jp>

Publisher ■ Kishi Masahiro
Creative & Art Director ■ Narita Sadayuki
Chief Editor ■ Ebina Mikiko
A to Z Writer & Editor ■ Tokunaga Moe
TOPICS Writer & Editor ■ Honma Kazumi
New & Goods Writer ■ Shirafuji Saori
Review of CLIENTS Writer ■ Ebina Mikiko
Focus on JAPANESE Writer ■ Kurita Miyuki
Photographer ■ Himukai Atsushi
Editor & Digital Printing ■ Watanabe Mototsugu

※本誌はデジタル印刷機 Ricoh Pro C7200sで、表紙にクリアトナーを使用し、オンデマンド印刷・製本をしています。